Lección 6

フォームに注目!・並行タイプ

Disc 1 7 DVD

【タイプ２】指と弦が並行タイプ

ナイロン弦チャランゴの伝統的な奏法です。

低く構えると弾きづらいですが、胸のあたりに構える伝統的な構え方と相性がいい弾き方です。

低く構える場合は手首の位置を下げると並行に入りやすくなります。

弦に触れる瞬間

弾いた直後

【指の当て方】

弦に対して並行になるように指先を当てます。人差し指の腹で２本の弦をまとめて捕らえ、少し押し込むようにした後で弦の反発を利用して離すことで２本の弦が同じような振動をします。

ギターのピック弾きのように弦に対して縦に弾くというイメージは持たないことがコツです。

弾く位置はホール上よりヘッド寄り。１５～１６フレット上あたりが基本です。

指を上から当てる

少し押し込むようにして

離す

【こちらも手の甲を動かさない】

「直角タイプ」と同じようにこちらも手の甲がなるべくぶれないことが重要です。

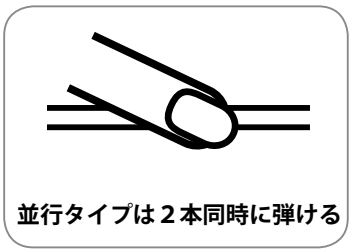
支えを使う場合は親指よりも、薬指や小指（場合によっては中指も）を支えにすると弾きやすいです。（左ページ写真参照）

手のひらへ向かって指先を丸めるような感覚で弾くと手の甲が動きにくくなります。

【並行タイプの特徴】

２本の弦が同じように振動するため、綺麗に揃った音が鳴ります。

強めに弾くと芯のある太い音が鳴ることも特徴です。



人差し指と中指を交互に弾くのが難しいため速弾きには向いていません。慣れればある程度のスピードは出せます。

薬指を使った３本指奏法には向いていません。

筆者は実際に速弾きするときには少し指を直角にし、音色を重視するときには並行にするといった切り替えをしています。

親指の当て方

他の指ほどではないですが、親指も角度の微調整によって爪が多く当たるタイプと皮が多く当たるタイプがあります。直角・並行タイプと音質が整うように弾けるとベストです。（爪については次ページ参照）

親指爪多め

親指皮多め